札幌市立大学
附属図書館
ニュースレター

のほほん

第13号
2020年1月

ロゴマーク　デザイン学部メディアデザインコース1期生　木村　尚史

荒俣　蓮『ひらがなギター』

特集「知の未来」

心と知能について深く考える
札幌市立大学　学長 ―― 中島　秀之

「モラトリアム世代」ですが、なにか!?
札幌市立大学看護学部　大学院看護学研究科　准教授 ―― 本田　光

大道廃れて仁義有り、智慧出て大偽あり
札幌市立大学デザイン学部　准教授 ―― 武田　亘明

子どもとおとなの視点はちがう？
札幌市立大学看護学部　助教 ―― 牧田　靖子

ヒトがゆずれないもの
札幌市立大学デザイン学部　助教 ―― 矢久保空遥

学生の本にまつわる話
飛行機に乗りたい ―― 看護学部4年　戸部　琴乃
「知」と出会う ―― デザイン学部3年　小幡　咲綺

特集：図書館の今、図書館の未来
ミシシッピ大学図書館 ―― のほほん編集委員　松井　美穂
札幌市図書・情報館 ―― のほほん編集委員　森　朋子
札幌市えほん図書館に行ってきました ―― のほほん編集委員　伊東健太郎
札幌市の図書館を活用しよう！ ―― のほほん編集委員　黒田　紀子
図書館の未来 ―― 図書館専門員　平　紀子

カウンターの内側からの紹介図書
芸術の森キャンパス・ライブラリー司書 ―― 結城　聖良
桑園キャンパス・ライブラリー司書 ―― 谷口　明菜

附属図書館 貸出・視聴ランキング

札幌市立大学
附属図書館
SAPPORO CITY UNIVERSITY
https://www.lib.scu.ac.jp/

表紙の作品について

『ひらがなギター』
札幌市立大学デザイン学部H30年度の卒業研究においてコース優秀賞と芸術の森賞1位を受賞した。
「日本語メディア芸術の制作」では31個の日本語をモチーフにした作品を制作した。
大学院進学後も制作を続け、40番目の作品がこれに当たる。
ひらがな50音をモチーフとしたギターのミニチュア作品。

作者紹介

荒俣　蓮（あらまた　れん）
「あ」ではじまり「ん」でおわる。日本語造形、ゲームデザイナー。
札幌市立大学　デザイン学部　第10期生（コンテンツデザインコース）
在学中、コンテンツデザインを学び、アナログゲームデザインと日本語メディア作品の制作を行う。
制作したアナログゲーム「コトバーテル」は現在製品販売中。
卒業後は札幌市立大学大学院に進学し、アナログゲームの面白さについての研究、それを基にアナログゲームの制作を行う。

編集後記

令和という新たな年号となり、改めて来し方を振り返ると、ここ半世紀だけをみても、人間はその「知」によって大きな発展を遂げてきました。しかし、同時にその発展の負の側面もみてきました。私たちの「知」はこれらからどこへと向かっていくのでしょうか。あるいはどこへと向かって行くべきなのでしょうか。

そのような問いに対するヒントや、アイディアを探るべく、私たちの「知」の未来をこれまでの「知」の集積ともいえる「本」を通して考えてみる、というのが本号特集のテーマです。筆者が本号エッセイで紹介したフォークナーはノーベル賞受賞スピーチで、「詩人の声は、単に人間を記録したものではなく、人間が耐え、勝利を得るための支えの一つである」ということを述べています。より複雑化していく世界の中で、これまで人間が行ってきた知の蓄積は、私たちの羅針盤になってくれるのではないでしょうか。

今号ではミニ特集「図書館の今、図書館の未来」を掲載し、「知」と同時に「図書館」の未来についても考えてみました。図書館をめぐる状況も日々変化し、多様なあり方が可能になっているように思えます。『のほほん』読者の皆様が、図書館の未来の可能性をそこに感じとっていただけたら幸いです。

デザイン学部　松井美穂

札幌市立大学附属図書館ニュースレター
のほほん第13号

編　　集　札幌市立大学図書館運営会議
編集委員　松井　美穂　森　朋子
伊東健太郎　黒田　紀子

発 行 日　2020年1月20日

発　　行　札幌市立大学附属図書館
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目
事務局　地域連携課　図書館担当
TEL.011-592-2346

制作・印刷　三浦印刷株式会社

ご感想をお聞かせください。
library@scu.ac.jp

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
VEGETABLE OIL INK

特集

知の未来

心と知能について深く考える

札幌市立大学　学長
中島　秀之

筆者紹介
1952年、兵庫県は西宮の生まれ。関西弁と東京弁のバイリンガル。1983年、東大大学院情報工学修了（工学博士）。同年、日本のAI研究の最高峰であった電総研に入所。産総研サイバーアシスト研究センター長を経て2004年より公立はこだて未来大学学長。2016年より東大先端人工知能学教育寄付講座特任教授。2018年より現職。

イラスト
デザイン学部2年
鈴木　萌乃

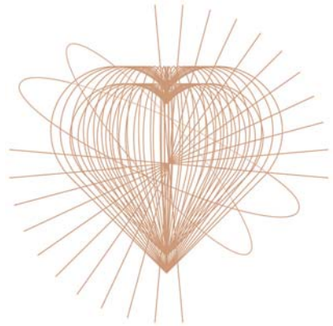

イラスト
デザイン学部2年
鈴木　萌乃

「知の未来」というお題をいただきました。大変難しい。『のほほん』の特集タイトルに「知」が使われているのは今回に始まったことではありませんが、やはり初めて書くときには「知」って何だろうと考えてしまいます。「知能」とか「知識」とか「知恵」は広辞苑にも出ていますが、なんと「知」という項目は広辞苑にはありません。新明解には項目がありました。知恵のことと書いてあります。そういえば「人工知能」の中国語は「人工智慧」です。

それにしても知恵に過去や未来があるのでしょうか？
「知の未来」の逆といったら「温故知新」ではないでしょうか。

というわけで私が学生時代から続けているAI（人工知能）という分野の研究の話をしたいと思います。
私が学生の頃（1970年代です）の日本ではAIを体系的に教えている大学は皆無であったと言ってよいでしょう。それどころかAIは胡散臭いと反感を持つ先生が大勢いらっしゃいました（私の指導教官もその一人でした）。そういうわけで私が本格的なAIの講義に出会ったのは1978年に東大工学部とMITの交換留学制度でMIT AI Laboratoryに行かせてもらったときです。M.ミンスキー、N.チョムスキー（大学にチョムスキーの部屋はあったのですが、本人を見かけたことはありません）、D.マー（彼も体調が悪く、見かけたことはありません。3年後に若くして死去）、C.ヒューイット（私の指導教授）、P.ウィンストンらの錚錚たる顔ぶれがいました。

私がMITに行く前年にイギリスのエセックス大学でP.ヘイズ（J.マッカーシーと共に有名な「フレーム問題」の論文を書いた人で、後に私がスタンフォード大学で在外研究していた頃には彼もカリフォルニアにいて、よく議論しました）に学んで帰ってきた斉藤康己が、「AIは面白いから勉強会をやろう」と呼びかけました。私も卒論の頃からAIをテーマにしていた（指導教官がAI嫌いでしたから若干の工夫は必要でした）ので、即座に反応し2週間に1回の自主ゼミが始まりました。最初は4人のメンバーで始めたのですが、これがどんどん膨れ上がり、最盛期には100人を越す人たちがいました。後にAIUEO（Artificial Intelligence　Ultra-Eccentric　Organization）という名前が決まり、それ以来40年以上に亘って活動してきたのですがつい先日の合宿で終焉を宣言しました。
このAIUEOでは、隔週の論文輪講の他に、年2回ほどの合宿で原書を1冊づつ読むということも行なっていました。それらの本のうちから『エキスパートシステム』と『メンタルモデル』の日本語訳は、個人名ではなく「AIUEO訳」ということで産業図書から出版されました。

ここでは合宿で読んだ本の中から分野外の人にとっても重要だと思えるものを紹介したいと思います。
分野外の人にとっても重要だという基準以外に、私が学生以来40年間AIを研究し続けたなかで出会った最も印象的な本でもあります。これらの本は大変刺激的な内容で、専門知識は不要ですが、頭をフル回転させなければ理解できない類のものです。「のほほん」と読める本ではないことをあらかじめお断りしておきます。でも名著なのだから是非紹介したいのです。

1番手は『ゲーデル、エッシャー、バッハ―あるいは不思議の環』です。以後GEBと略しますが、この本の表紙には三方からそれぞれG、E、Bと読める立方体（実際に造形可能です）が描かれています。
原著は1979年に出版され、翌年の1980年にピューリッツァー賞を受賞しています。
翻訳はもう絶版かもしれないと思ってamazonで調べたら、20周年記念版が2005年に発行されていて、まだ手に入るようです。
題名の通り、ゲーデル（数学者）、エッシャー（画家）、バッハ（音楽家）をテーマに彼らの仕事や概念を文章で見せてくれる本です。
「ゲーデルの不完全性定理」というのがあり、知能の限界などを議論するときに使われたりします。実用的な記述力を持った論理システムでは、そのシステム内で正しいとも間違っているとも決められない文（正確には命題）が作れるというものです。我々の使っている日本語（もちろん英語などの他の言語も同じです。論理言語やプログラミング言語と区別するために自然言語といいます）でもそういった文が作れます。「この文は間違いである」というのがその例です。この文が正しいと考えるとこの文は間違いであることになりますし、この文が間違っていると考えるとこの文は正しいことになってしまい、真偽が決められません。
エッシャーはだまし絵で有名です。無限に登って行く階段の絵や、図と地がいつの間にやら反転してしまう絵、そして鉛筆を持って腕を描いている腕が別の腕に描かれている絵など、現実世界にはありえないものを様々描いて見せてくれます。腕を描く腕は、コンピュータプログラムで多用される再帰（リカージョン）の概念などと相通じるものがあります。
バッハの音楽は非常に技巧的で、裏に数学的構造が隠されています。私の仲間の研究者にもバッハが好きな人は多くいます。カノンという、複数旋律が追いかけっこする曲がありますが、GEBには三人の会話でこれを実現したものが載っています。

2冊目は『マインズ・アイ ― コンピュータ時代の「心」と「私」』です。これは心の問題に関する様々な小説、エッセイ、論文などの寄せ集めです。
有名なチューリングテストを提案した「計算機械と知能」も含まれています。
1960年頃のコンピュータの黎明期に、これで知能が実現できると考えたチューリングが、「機械に知能は持てない」と反論する人たちに向けて描いた思考実験です。顔かたちを人間に似せる必要はなく、知能の有無は言葉のやりとりで分かるという主張です。
R.ドーキンスの「利己的な遺伝子と利己的な模伝子」（これは後に1冊の本になります）はちょっとセンセーショナルな内容です。人間や動物、あるいは植物は遺伝子で子孫を作るということが知られていますが、彼はこの生物と遺伝子の主従関係をひっくり返して見せたのです。つまり、主人は遺伝子で、その遺伝子が自分のコピーを出来るだけたくさんバラまくために生物の体を造った、つまり我々生物は遺伝子の乗り物であるという考え方です。これは単に見方を変えてみせたということではなく、ダーウィンの進化論では説明できないような様々な現象（たとえば自己犠牲などの利他的行為）を説明できる強力な理論なのです。

他にも様々な著者によるエッセイが収められていますが、雰囲気を知ってもらうために、個々の章を大くくりにした部のタイトルだけを列挙しておきます：「私とは」、「魂を求めて」、「ハードウェアからソフトウェアへ」、「心はプログラム」、「創られた私と自由意志」（AIや神経生理学では人間を機械と見なしますから、自由意志はあるのか？と言ったことが議論になります）、「内なる眼」（意識とは何で、どこにあるのか）です。
これらの本とじっくり付き合う人が増えると良いなと思いつつ、終わります。

書籍情報

ダグラス・ホフスタッター著, 野崎昭弘, 柳瀬尚紀, はやし はじめ訳『ゲーデル、エッシャー、バッハ―あるいは不思議の環』白揚社, 1985
原著 Douglas R. Hofstadter, *Gödel, Escher, Bach: An Eternal Golden Braid.* Basic Books, 1979

ダグラス・ホフスタッター, ダニエル・デネット著, 坂本百大監訳『マインズ・アイ―コンピュータ時代の「心」と「私」〈上、下〉』TBSブリタニカ, 1992
原著 Douglas R. Hofstadter and Daniel C. Dennett, *The Mind's I: Fantasies and Reflections on Self & Soul.* Bantam Books,1985

特集

知の未来

「モラトリアム世代」ですが、なにか!?

札幌市立大学看護学部　大学院看護学研究科　准教授
本田　光

筆者紹介

北海道出身。生物と化学が大好きな高校生だった私の夢は植物学者かバイオ研究者。ヒトとのお付き合いは苦手。遅刻や欠席が多く、ペナルティーとして奉仕活動を課される高校生。そんなある日、進路相談室にあった職業図鑑で、臨床検査技師という人と会わずに済みそうな研究チックな仕事を発見し、当時はまだ少なかった保健学を学べる沖縄の大学に進学。南国での生活が彼に何をもたらしたのか？数々の運命的な出会いにより現在に至る。

イラスト
デザイン学部2年
小島　千乃

この記事を手に取って読んでくれている貴方は、何世代だろうか？その時代々の社会背景の影響を受けて育ってきた人々の特徴を指して、○○世代とラベルを貼る見方がある。私はいつも、「あぁ、さすが『無いものは作れ』の団塊世代のエネルギーはすごいな。まるでブルドーザーみたいな仕事の仕方だな」などと見ている。バブル世代は、プライベートのお付き合いになった時にその真価を知ることができる。どんな時もどんな状況に置かれても「いかに華やかに生きるか」が、この世代の共通の価値観のように見える。

ヒトは、「あるもの（人）を見て定義するのではなく、定義してから見る」傾向があるらしい。情報で溢れる現代社会に生きる我々が、無意識のうちに行っている「思考の節約」だという。

私がこの本を手に取ったのは、今、振り返るとあの頃が共生社会を迎える本格的な改革の幕開けだったのだろうか？保健師として働き始めて3年目頃だったと思う。

全国の精神科病院のベッド数削減という大改革が南の島の基幹病院でも始まり、私も心に病をもつ人たち一人ひとりと向き合って、病院から地域へと帰る支援に奔走していた。そのとき何よりも難しい課題だったのが、地域にあった大きな偏見の壁であった。「あぁ、これが偏見というものなのか！」と嘆きたくなる場面にいくつか遭遇した。

それは、ご自身の辛い体験を通して定義されてきた偏見もあったが、多くはどこか他所からの定義を我が事のように受け入れ、錯覚し、誇大化しているのであった。また、偏見の視線で見られている側には、スティグマ（烙印）と呼ばれるものがあるそうだ。偏見をもつ人々と偏見を受ける人々、その両方の立場に立って考えていかなければならないことを学んだ。

この本を読んで、「私は、誰の何を支えようとしているのか」、保健師である私の仕事の意義に気づき始めたのだった。

毎年、市役所と保健所との共催で、精神保健福祉普及月間というイベントが実施されている。当時の私には、これは毎年恒例のイベントであり、“こなせばよい仕事”と思っている節もあった。しかし、偏見と差別の構造を理解することで、その仕事の意義が見えてきた。この本は、私を保健師として一歩成長させてくれた本になった。

さて、私は何世代かというとモラトリアム世代である。「欲しいものは手に入れろ！」という大量消費のバブル世代の反省からか？「自分とは何かを考えよう、個性を大事に！」と、言われ続けて育ち、いつまでも自分探しの旅に出かけている世代である。

なので、私は旅が好きで、特に途上国に出かける冒険の旅が好きだ。そんな旅の土産話を学生に持ち掛けるのだが、あまり興味がない様子なのが寂しい。なるほど、さとり世代は、既視感に包まれているという。実際に行ったことも見たこともないのに、知ったつもりになっている世代らしい。たしかにGoogle mapのストリートビューを見れば、そこに行ったつもりになれるだろうし、いつでも見られると思ってアプリを開きもしないのかもしれない。デジタルネイティブなこの世代にとって、定義をしてから世界を見る習慣が、大量の情報を処理するためには必要なのだろう。それがつまり既視感なのかもしれない。

「知の未来」様々な場面における定義は、ヒトが考えなくてもAIが提供してくれるようになるのだろう。貴方にオススメの本はすでにAIが教えてくれる時代である。しかし、寄り道をしながら自らの足で探し出す遠回りが人生を豊かにしてくれるものと信じるのは、やはりモラトリアム世代の性だろうか。私の自分探しの旅は、まだ終わりそうにない。

書籍情報

上瀬由美子『ステレオタイプの社会心理学 - 偏見の解消に向けて』サイエンス社，2002
原田曜平『近頃の若者はなぜダメなのか - 携帯世代と「新村社会」』光文社，2010

大道廃れて仁義有り、智慧出て大偽あり

札幌市立大学デザイン学部　准教授
武田　亘明

イラスト
デザイン学部2年
澤田　春風

筆者紹介

人間空間デザインコース。
専門はメディア教育、企画デザイン、中国哲学。教育や市民活動への効果的なメディア活用、Collaboration能力を開発する教育実践に取り組む。1994年マルチメディア事典、1994年ホームページ作成授業、1994年HTML作成ソフト開発、1995年Intercity OROPPAS制作、1996年Internet Collaborative Educationバーチャル雪まつり、1999年Internet TV放送など日本で最初に実践した。

古代中国の周が乱れてから約250年間を春秋戦国時代という。春秋十二列国、戦国七雄が割拠し、それぞれが天の意思に従って互いに他国を攻め領土を拡大し天下統一を目指した。諸侯や王は、自身や家を治め、民や国を治め、天下を治めるための拠り所、新しい時代に相応しい普遍的な思想を求めた。諸子百家が現れ体系化した思想を示し、弟子を抱え儒家や墨家、法家などの学派が生まれた。国は乱れ混沌とした時代だったが精神的には自由な時代だったと言える。

それがB.C.221年に秦によって統一されると、一つの考え方が社会を覆い、ある価値観が支配することになる。物差しが決まりそれに従えば良好に生きられる世の中となった。精神世界は、定められた大枠の中での小さな自由な状態となる。時の為政者は、ある価値基準で天下を統治し、大きな組織・機構を維持し、その秩序に反しない限りの発展を求める。王と社会の体制をいかに継承、継続させていくかが最も重要な関心ごととなる。

統一された国内では、支配者と被支配者に分かれる。一つの方向を向いた社会での自己実現は、競争の中で如何に誰に認められるかが肝心となる。社会の安定で経済は繁栄するが、その利益は独占され著しく偏って分配される。勝ち組と負け組が生まれ、弱き声は掻き消され社会の底辺で不満が蓄積されていく。

儒家の思想は、積極的に保守的で、組織に生きる知識人の拠り所となった。天がつくった人間の中にあるはずの天意を伺うべく、よく内省し行動することが望ましいとされる。

老子1）は、この世界の底に広がる神秘（玄）と一体となることで、人が如何にして生き残るかを見つめた哲学者である。

「老子道徳経」2）十八章に、この世界を成り立たせている根源「大道」が遍く行われなくなったために、世間では、仁義などという人の考えた小手先の決めごとによってバランスを取り繕おうとしている。人の小賢しい知恵による行いが盛んになり、偽りの詐術が増えるばかりである。親族が不和となっているから慈愛と孝行がことさら大切だと持て囃されるようになった。国家が混乱しているから、忠臣どもが現れ際立った存在となるのだ（大道廃、有仁義。知慧出、有大偽。六親不和、有孝慈。國家昏亂、有忠臣。）と言う。

老子は隠者であるけれども、乱れた状態でも王や国家にはまだ可能性が残っているとの未練が残る。吟味を尽くした暗示的な言葉を使って政治的に批判をする。道家の見つめる世界は武力と競争によって得られることはない。無為で自然に生きることこそが大道に即した調和ある理想の世界に繋がると言葉を尽くす。

これまで人類は、皆で知恵を出し合って、より良い世界を創るため世界基準を整備し開発を進めてきた。国や組織が構築され、技術革新を続け工業化、情報化を進めてきた。国や地域は相互に繋がりを強め、地球規模に国境は曖昧となっている。ICTの利用で更に高みを目指し、変化はスピードを上げている。誰もが一生懸命に走り続けることは社会の健全な姿で、知恵を出し合い競って良い社会作りに取り組むことに誰も反対はしない。競争は皆の力を発揮させ、全体がより良くなっていくと考えるからだ。

「智慧の出し合い競争ゲーム」には、勝ち負けが付きまとうが、敵味方はない。ゲーム主催者と参加者の2種類しかいない。ルールを決める主催者が常に勝者で誰も敵わない。参加者はどんなに頑張っても良きプレーヤーになるのが精精なのだ。

今さら、持続可能な社会のために、人間の行いと自然とのバランスが大切なので智慧を出し合い解決していこうと言う。ゲームの設定とルール自体が問題であるとゲーム主催者が自白したのである。

自然と人間が対峙したバランスを考え、速さ高さを競うことは虚しい。人間も自然を構成する一部だという考えは古から伝えられている。寧ろ、深さや奥行き、広さと深淵さと向き合い、赤子のように素直に、無為で自然として水の如くあることに意味がある。悠然としてしかも謙虚に研鑽を積む姿勢が、大道と響き合い心に沁み渡る本来のあるべき姿と言えないだろうか。志を弱くしてこそ、その骨は強くなる。

誰れかの手のひらの上のプレーヤーではなく、誰れもが何者にも囚われないルールのデザイナーであることが求められている。

（註1）司馬遷の「史記」列伝第三によれば、老子は姓は李、名は耳、字名は聃、楚苦県の生まれ、東周洛陽市の図書館の史官。B.C.5世紀～B.C.4世紀前半に生きた人らしい。
（註2）老聃が函谷関を過ぎるにあたり、関所の役人尹喜に請われて著した書物と言われているが、B.C.2世紀頃にまとめられたとみられる。

書籍情報

小川環樹訳注『老子』中公文庫，1977

特集

知の未来

子どもとおとなの視点はちがう？

札幌市立大学看護学部　助教
牧田　靖子

筆者紹介
札幌市出身。小児救急看護認定看護師、小児看護専門看護師。看護師として臨床で勤務し、2018年より現職。小児看護の向上や子どもの事故予防の研究など、守ることができる命を守る取り組みなどを通して、子どもの健やかな成長発達を目指しています。

イラスト
デザイン学部2年
竹内　菜実

私は小児看護師という職業柄、絵本や児童書を何気なく見てしまうことが多いのですが、皆さんはいかがでしょうか？今回の特集テーマは「知の未来」ということで、これから未来を背負っていく小児向けの本を3冊紹介したいと思います。

まず1冊目は、「東京大学赤ちゃんラボ」の開一夫教授の研究から生まれた赤ちゃん学絵本、『もいもい』、『うるしー』、『モイモイとキーリー』という絵本のシリーズです。これは、話すことができない赤ちゃんに複数の絵を見せて一番注視していた絵に着目し、科学的に分析した結果からつくられた絵本シリーズです。大人の私から見ると、色彩豊かな不思議な図形がいろいろと並んでいる絵本です。赤ちゃんがどのような感覚なのかはわかりませんが、じーっと見ていると心地よい夢をみているような、これから先に夢が広がるような、穏やかな、それでいて頑張れそうな、不思議な感覚になります。よくわかりませんが、赤ちゃんはこれらの絵本が好きなようです。

以前テレビで、大泣きの赤ちゃんに、スマホで車のエンジン音を聞かせるとピタリと泣き止むという動画が紹介されていました。母親の胎内にいるときの音と似ているのではないかという説明でしたが、本当にそうなのかはわかっていないようです。まだまだ赤ちゃんは奥が深く謎だらけです。

2冊目は、『おこだてませんように』という、くすのきしげのりさんの絵本です。小学校1年生になったばかりの「ぼく」は家でも学校でもよく怒られます。「ぼく」にはちゃんと理由があるのですが、いつも怒られている「ぼく」は、何か言うともっと怒られてしまうので、理由は言わずに黙って横を向いて怒られます。そんな「ぼく」は、自分は「わるいこ」なのだろうかと悩みます。そして七夕の短冊に覚えたてのひらがなでひとつずつ思いを込めて一番のお願い事をするのです。「おこだてませんように」。一生懸命な主人公の姿にいじらしさとかわいらしさがこみ上げてきて、私は毎回この本を読むと、ほのぼのとした気分になります（同僚のI先生は、読んで号泣していましたので、泣ける本かもしれません）。心が疲れているときにぜひ読んでみてください。その年齢のその子なりに、一生懸命考えていることがあるのだということを知ることができ、また、日頃の自分を内省することにも役立つ1冊です。

3冊目は、ドイツの作家ミヒャエル・エンデの『モモ』という本です。これは、絵本ではなく、児童文学作品です。時間どろぼうに時間を盗まれて、一生懸命働くようになった友人は、お金は貯まるけれど心に余裕がなくなっていきます。そんな友人たちのために盗まれた時間をモモがとりかえす物語です。みなさんは、時間どろぼうに時間を盗まれていませんか？

この本の中で、モモは友人たちの話を聞くとき、何もせずただ黙って聞きます。友人たちは、モモにたくさん話を聞いてもらいます。1973年に発行された本ですが、「傾聴とは」、ということも教えてくれる本です。大学院時代に『モモ』の感想文を書く機会があり、その科目担当の先生に「断捨離」の本を勧められて読みました。やっぱり時間には限りがあるので、「計画的に使えるように整えなさい」、ということであったのだと思います。そんな私の研究室は、時々文献や資料があふれかえり、上司のM先生が災害時の脱出経路を心配してくださるような状態になります。そんな私の目下の課題は、時間どろぼうから時間を取り返すこと、時間どろぼうに時間を取られていたとしても環境にも仕事にも心にも余裕を持てるようになることです。

書名：もいもい
著者名：作　市原淳、監修　開一夫
出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン

書籍情報

市原淳作，開一夫監修『もいもい』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2017
ロロン作，開一夫監修『うるしー』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2017
みうらし～まる作，開一夫監修『モイモイとキーリー』ディスカヴァー・トゥエンティワン, 2017
くすのきしげのり作，石井聖岳絵『おこだてませんように』小学館. 2008
ミヒャエル・エンデ作，大島かおり訳『モモ』岩波書店, 2005

ヒトがゆずれないもの

札幌市立大学デザイン学部　助教
矢久保　空遥

筆者紹介
人間情報デザインコース。
札幌市立大学にて製品デザインを学び、その後千葉大学の意匠形態学研究室に所属していました。2016年より札幌市立大学で勤務しています。インターモダリティの中でも特に共感覚的比喩に着目し、これを利用して感性発現の神経基盤にアプローチできないかと考えています。

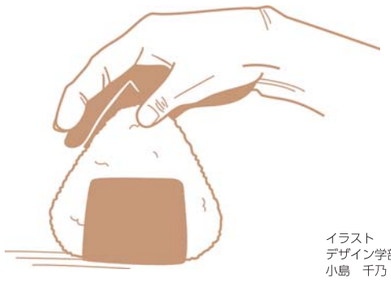

イラスト
デザイン学部2年
小島　千乃

「幅広い哲学的探究のなかで、知識を渇望するすべての人にとって、人間を人間せしめるために重要な精神的優位性の正確な性質ほど強く興味を惹かれる主題はない」これはEdward Blythによって1837年に記された言葉です。AIやVR、ロボットといった、『未来的』な技術が驚くべきスピードで開拓されている現代においてもなお、未知の領域とされているのが人の精神的な側面であるといえます。感性・創造性・情動・感情・認知・知覚など様々なキーワードを含むヒトの精神的優位性は現在も科学の関心として、日々新たな知見を生み出しています。「知の未来」というテーマを与えられた今回、私は人類が引き続き取り組み続けるであろう、ヒトの精神的優位性に関連した本を紹介し、これからの知の未来について考えたいと思います。

1つ目に挙げたいのはデザイン学部の皆さんであれば、誰しもが考えたことがあるであろう「美しい」という体験です。『脳は美をどう感じるか-アートの脳科学-』では様々な美術作品や研究結果を通して、「美しい」という体験がどのような神経活動によってもたらされるか、「好み」の個人差をどのように考えるか、美的反応に性差はあるか、などといった人の脳が「美しい」という体験をどのように捉えているのかを解説しています。本書の中から1つ面白い記事を抜粋するならば、「美しさ」と「醜さ」という体験の関係が挙げられます。「美しい」という言葉の反意語は「醜い」と思われますが、実は脳の活動をみると、それぞれ全く別の箇所の活動であるというのです。さらに、「美しい」脳部位が活動しているときは「醜い」脳部位は活動せず、「醜い」脳部位が活動しているときには「美しい」脳部位が活動しないという、互いにトレードオフの関係を持っているというのです。本書ではさらに、美しさを創り出す「創造性」という点にも目を向け、理系・文系問わず理解しやすくまとめられています（学部1年生の授業用にまとめられた書籍です）。

2つ目に挙げたいのは、皆さんも日常的に行なっているであろう感性的な表現についてです。我々はより細かなニュアンスを伝えようとするときにしばしば、擬音語や擬態語を用いたり、形容詞を用いたりして表現しています。特にデザインの現場などでは「もう少しヌルッとした表面に」ですとか「もうちょっと暖かい色味で」などといった表現を違和感なく使う人は多いかと思います。このような能力を解説した書籍が『脳のなかの天使』と『日本語の共感覚的比喩』です。『脳の中の天使』では視覚情報が音響情報に変換されるときの具体的な例を挙げ、“ブーバ・キキ効果”として紹介しています。おそらく、私たちの多くが「明るい音楽」と「暗い音楽」を弁別できますが、実際に視覚的な明るさを感じているわけではありません。このような、ある種の感覚を修飾する表現で、別な感覚を修飾することを「共感覚的比喩」といいます。『日本語の共感覚的比喩』では、この共感覚的比喩について言語間の比較、言語学的なアプローチで行なっています。いずれも、専門用語は少なく、文系・理系問わず読める書籍で、脳疾患を抱えた患者の症例などを交えて、わかりやすく人の精神的優位性についてまとめられています。

「知」とはSF映画やSF小説に出てくるような驚異的な技術、人知を超えた現象によって形成されるものではなく、身近な好奇心や疑問に発芽し、脈々と幹を伸ばし、葉を茂らせた末に結ぶ実のようなものだと私は考えています。当然、その中には切り落とさなければならない枝もあれば、人の目に見えない花もあるでしょう。今の時代、ロボットやAIという枝に人々の注目は集まっています。これは、これらの枝に咲く花が実を結び、新たな芽を吹く可能性に溢れているからに他なりません。しかしながら、ロボットやAIという技術では（少なくとも今は）補完し得ない興味・関心・知的好奇心があることもまた事実でしょう。先に挙げたヒトの精神的優位性もその1つです。そんな興味や知的好奇心という種をくだらないと一蹴せず、大切にすることこそが「知の未来」を育むことに繋がるのではないかと思います。

書籍情報

V.S. ラマチャンドラン著，山下篤子訳『脳のなかの天使』角川書店, 2013
原著 V.S. Ramachandran, *The Tell-Tale Brain: A Neuroscientist's Quest for What Makes Us Human.* Brockman Inc, 2011.
川畑秀明『脳は美をどう感じるか-アートの脳科学』ちくま新書, 2012
武藤彩加『日本語の共感覚的比喩』ひつじ書房, 2015

学生の本にまつわる話

飛行機に乗りたい

札幌市立大学　看護学部　4年
戸部　琴乃

イラスト
デザイン学部2年
山岸　小百合

私は、物心がついたときから、飛行機に乗ることがとても怖かったです。そして、飛行機に乗ると考えただけで、怖くてたまりませんでした。

飛行機をイメージすると、こんな言葉が思いつきます。「狭い空間」、「逃げ場の無い箱」、離陸や着陸時の気が遠くなりそうになるほどの「浮遊感」、そして、死ぬのではないかと度々思うほど、飛行機が揺れている場面に自分が遭遇しているという想像をします。そして、飛行機に乗ったとしても生きた心地がしなく、泣きそうになっている自分がいます。

このような背景から、私は飛行機恐怖症であることに気が付きました。「自分はなぜこんなにも飛行機を怖がるのだろう」、「飛行機での旅行に行くのを断念してしまうのだろう」、「世の中には、飛行機を怖がらない人もいるのに、なぜ自分だけこんなにも怖いのか」と、自分に呆れ、嫌悪感を抱いていました。そして、飛行機への不安や恐怖は一生治らないまま、生きていくのだと考えていました。

しかし、「飛行機恐怖症を治したい」、「恐怖心から大好きな旅行を諦めるのは嫌だ」という気持ちから、大学4年生の春に『もう飛行機なんか怖くない！』という本に出会ったことで、飛行機に対する感じ方が大きく変わりました。

本書では、飛行機恐怖症の方々のエピソードと成功体験、克服への道のりが書かれていました。私は、飛行機に対し、「危険・死・事故」というイメージをもっていましたが、本書では、飛行機はゆりかごに乗って揺れているようなもの。事故が起きる可能性はとても低く、安全な乗り物であると記載されていました。初めてその言葉を見たときには、正直、信じられませんでしたが、読んでいくうちに、次第とそれらが本当の事であるように思えました。そして、飛行機恐怖症は、治せないものであると考えていましたが、自分で治せるものであると記載されていたのです。

私は、本書の中で気に入っている言葉があります。それは、「恐怖心に対しては打つ手がある。それどころかどんな状況であっても自分の気は自分で変えられる」、「飛行機への恐怖は不合理な恐怖、歪んだイメージである」、「未来、想像の恐怖心を解消するのではなく、今一瞬の対処やできることを行うことが大切」という言葉です。飛行機に対して怖いイメージしか持っていなかったことや、もし飛行機が揺れたらどうしよう、トラブルが起きたらどうしようと、未来の不安ばかり考えていた私にとって、納得のいく部分が多く、すっと言葉が心に入ってきました。

恐怖という感情は自分の頭の中で作られるものですから、自分でそれをコントロールできること、また、飛行機が恐怖を引き起こす事象ではなく、自分の考えで恐怖心が芽生えていることがわかり、飛行機への見方が変わりました。

私は、実際に飛行機に乗り、飛行機恐怖症を克服するきっかけとなったエピソードがあります。それは、大好きなアーティストのコンサートに飛行機で東京に行くことになったのです。飛行機恐怖症であるからと言って、コンサートを諦め、逃げることが嫌だったので、飛行機に乗ることを決めました。そして、本で読んだことを確かめたかったのです。本音を言うと、本を読んだ後でしたが、飛行機に乗るのはとても嫌でしたし、恐怖心も強くありました。しかし、「怖くてもいいや」、と考えるようにしました。そうするとなぜか身体の緊張が解けました。また、飛行機への歪んだイメージを修正し、未来の不安を考えないようにしました。そうすることで、実際に飛行機に乗ると強い恐怖心に襲われるようなことはありませんでした。このことがきっかけとなり、これからは、飛行機に乗って旅行に行くことができると、自信につながりました。

『もう飛行機なんか怖くない！』を読んで、自分の飛行機への恐怖と向きあえたこと、恐怖心は他の人に理解されにくいものであるが、決して恥ずかしくないこと、飛行機への恐怖はだれにでもあるということが分かり、とても自分の力になりました。恐怖から逃げることは決して悪いことではありませんが、恐怖に打ち勝つには、自分の治したいという強い気持ちが大切であると考えます。自分の気持ちをつづる内容でしたが、飛行機に少しでも恐怖を抱いている人の力になればいいなと思います。

書籍情報

デビー・シーマン，平本かおり訳『もう飛行機なんか怖くない。：快適！空の旅ハンドブック』プレアデス出版，2000

「知」と出会う

札幌市立大学デザイン学部　3年
小幡　咲綺

イラスト
デザイン学部2年
山岸　小百合

近年、私たちは手軽に「知」の集積と出会う機会が増えた。インターネットである。

いつでも誰でもどこででも、容易に知りたい情報を手に入れることが出来るインターネットは、世界中のあらゆる「知」が集積された、いわば情報の海だ。

主婦が書いているブログから、世界の論文まで何でもすぐに見つけることができる。

キーワードを打ち込めば、膨大な記事からその関連した記事まで、自分の知りたいことをまわり道することなく、ピンポイントに提示してくれるのだ。その正確性に若干不安な点はあるものの、もはや私たちの生活において、なくてはならないものとなっている事は間違いない。

一方、最も古典的といえる「知」の集積である「本」はどうだろうか。それを収めている図書館はどうだろうか。図書館にはたくさんの本がある。それらの中から自分の知りたいことを見つけ出すには、本を手に取って、読んで、ある程度の時間をかけて自らの手で探し出す他に、知りたい情報や知識を得る術はない。

現在では、インターネットの素早さと手軽さに惹かれ、ほとんどの人が調べ物をするときにインターネットを使うだろう。実際、私自身も普段の生活だけでなく、学校の課題に関しても知りたいことを調べるときに、インターネットを利用することが圧倒的に多い。しかし、自分の知りたいことや正解だけを提供してくれるのでは、自分の興味や知識に関係のあるものしか目に入ることがないため、いずれ偏りが出てくるのではないかと考える。自分の知っている世界でしか物事を考えたり、アイディアを出せなくなっていったりするのではないだろうか。

対して、自分が必要な情報を自ら探し出さなければならない図書館には、目的の途中で、自分の興味外や全く触れたことのない世界に触れるチャンスがたくさん転がっている。むしろ、知りたいことではない情報の方が多いくらいである。

武蔵野美術大学の図書館の設計を手がけた、北海道出身の建築家・藤本壮介も「これからの図書館は本の森であるべきだ」と述べている。本が幾重にも重なって、その中を無限に歩いて行けるような空間の中では予測不能性が生まれ、ぶらぶらと歩いているうちに何かしらのインスピレーションに遭遇する。図書館はそんな場所であるべきだと。

私たちは自分自身の「知」を、自ら得た情報から培っていく。知りたい・気になると思った情報を自ら探して、理解して、自分のものにしていく。インターネットは、その過程において大きな手助けをしてくれるが、その便利さが我々の「知」の発展を狭める要因にもなり得る。時には図書館で自らの手で答えを追求したり、目的を持たずにぶらぶらと本の中を歩いてまわり道をして、思いがけないインスピレーションと出会う機会を待ってみたりするのもいいかもしれない。

書籍情報

藤本壮介著/瀧口範子聞き手『藤本壮介　建築への思索：世界の多様さに耳を澄ます』TOTO出版，2019

特集

図書館の今、図書館の未来

ミシシッピ大学図書館

のほほん編集委員
松井　美穂

2018年度後期（2018年10月～2019年3月）、私はサバティカル休暇を利用し、アメリカのミシシッピ州オックスフォードにあるミシシッピ大学で在外研究を行ってきました。ミシシッピ大学は1848年創立の州立大学で、学生総数は約23,000人の大きな大学です（ただし医学部、看護学部などは州都ジャクソンにあります）。私の研究テーマはアメリカ南部文学・文化、特にノーベル賞作家でもあるウィリアム・フォークナー（1897-1962）の小説です。実はフォークナーは人生の多くをこのオックスフォードで過ごし、住んでいた家は今、ミシシッピ大学が管理し、一般にも公開されています。そして図書館の壁にはノーベル賞受賞式のスピーチの一部が飾られており（写真1）、私はなるべくそれが見える机で勉強していました。ただし、フォークナー自身は、ミシシッピ大学に入学はしたのですが、学校教育にあまり関心が持てなかったようで、卒業せずに退学しています。

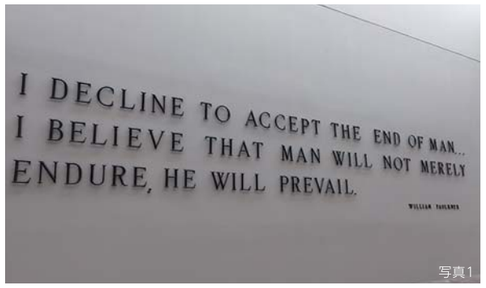

写真1

ここで、私が滞在期間、ほぼ毎日のように利用していた図書館を紹介したいと思います。

ミシシッピ大学にはいくつかの図書館がありますが、メインの図書館はJ.D.Williams Libraryといい3階建ての重厚な建物です（写真2、3）。入口横にはスターバックスがあり、日中はほぼいつでも長蛇の列ができていました（どれくらいの混雑状況か、図書館のホームページのライブカメラで確認することができます）。基本的には、いろいろな条件を守れば図書館には飲食物持ち込み可となっていて、多くの学生が飲み物を持参するか、スタバで買ってそのまま図書館で勉強していました。図書館の入館、閲覧は一般の人にも開放されていますが、私は大学からIDを付与されていたので貸借なども教員と同じように利用することができました。とにかく私の研究の本場でもあるので、読みたい書籍や論文がすぐ手に入り、研究者としては本当に夢のような日々でした。

学生にとって基本的に勉強の場は図書館であるためか、開館時間が長く、学期中は月曜日から木曜日までは7時から夜中の2時まで、金曜日は7時から18時、土曜日は10時から18時、そして日曜日は正午から夜中の2時となっています（ただしアメフトのホームの試合がある時は大学キャンパスがものすごく混雑するので休館になる時もありました）。閲覧用、学習用の机や椅子はたくさんあり、日中は多くの学生が勉強に勤しみ、特に試験期間の前は、席を確保できないほど混み合っていました（この時期は24時間開館しています）。また誰でも使えるデスクトップのパソコンも装備されていますが、ほとんどの学生が自分のノートパソコンを持参していました（しかも見たところ、ほとんどがMac）。さらに、日本でも同じような傾向だと思いますが、図書館も静かに勉強して本を読むという場を提供するだけではなく、グループ学習やディスカッションの場所も提供しています。この図書館にも、1階にグループ学習のスペースがあり、周りに気兼ねなくディスカッションできる場が確保されていました。

図書館には過去の知的・文化的遺産を収集し、未来へ遺すという機能もあると思いますが、ミシシッピ大学図書館にも様々なアーカイブがあります。その中でも特徴的なのは、ブルースのアーカイブでしょうか。ブルースは南部の、特にミシシッピの黒人たちが、過酷な差別や貧困の中から生み出した音楽です。書籍、レコード、ビデオなどを収集するだけではなく、その貴重な音源などを収集し、アメリカのみならず世界のブルース研究者に利用されています。

アメリカの南部では1960年代に公民権運動が活発になるまで、「ジム・クロウ法時代」といわれる、白人とアフリカ系アメリカ人があらゆるところで分離される時代が続きました。実はミシシッピ大学に初めて黒人学生が入学したのは1962年で、その時は黒人学生の入学に対して、死者も出る激しい反発が起こり、当時のケネディ大統領はミシシッピ大学に連邦軍を派遣し、その保護のもと初めて黒人学生が大学に入学することができたのでした。現在、図書館の前には、その学生ジェームズ・メレディスが大学に入る銅像があります。その像は、「知」を習得する権利は、誰にも平等に与えられているわけではないことを改めて訴えているように思えます。

写真2

写真3

札幌市図書・情報館

のほほん編集委員
森　朋子

■淺野館長へのインタビュー（2019年10月15日）

2018年10月7日、「札幌市民交流プラザ」の一角にオープンした札幌市図書・情報館、皆さんも一度は足を運ばれ、従来の図書館にはない何かを実感されたのではないでしょうか。その斬新さは、ライブラリー・オブ・ザイヤー2019 優秀賞「札幌市図書館政策のこれまでとこれから～図書・情報館の誕生～」の受賞理由からも垣間見えます。

「札幌市では近年、電子図書館、大通カウンターでの図書の貸出・返却、えほん図書館の開設と政令指定都市の中でもトップクラスの図書館サービスを提供している。中でも、昨年開館した札幌市図書・情報館は、わずか1500㎡という面積に新たな利用者層も取り込み、開館1年足らずで100万人の来館者を獲得した。『はたらくをらくにする』という明確なコンセプトを生かすため、本の貸出を行わず、レファレンス・サービスを重点的に行い、日本十進分類法を配架に使わないなど、すべてが職員の工夫によって行われている。このことは計画的に職員を育成したことによって成り立ったと思われる。本来の図書館ネットワークが完成しているまちにおいて、何らかの図書館機能を特化させるというサービスの進化形を具現化したものであり、札幌市の優れた図書館構想が、この図書・情報館や市民への図書館サービスを誕生させたことを評価した。」

ここで着目すべきは、本来の図書館ネットワークが完成した札幌だからこそなし得た、図書館機能の特化の具現化、という点です。その背景を、館長へのインタビューから読み解いてみたいと思います。

Q. 札幌市図書・情報館の原点となったものは何ですか？

私は以前、中央図書館のカウンターで貸出の業務も行っていましたが、その時、例えば「コーチング」や「起業」など、あるテーマに関連する本を借りてはすぐに返し、次も同じテーマの本を借りて行く利用者がいることに気づきました。本を通読するというよりも、むしろその人は、必要な情報のみを得ることが目的で本を借りていくのではないか？と思い、本そのものの使われ方が変化していることを実感しました。人の暮らしの中で本の使われ方が変化しているのですから、図書館の使われ方も変える必要があるのではないか、人の暮らしに寄り添える、もっと使いやすい図書館をと模索してきました。

Q.「はたらくをらくにする」というコンセプトはどこから生まれたのですか？

気軽に立ち寄れるまちなかの図書館は、待望の施設という声もお聞きしました。商業施設やオフィスが密集し、働く人やビジネス・観光で札幌を訪れる人が特に多い都心部に位置することから、「都心に集う人々を対象に『札幌の魅力や街の情報』、『ビジネスや様々な課題解決に役立つ情報』を提供」する課題解決型図書館というコンセプトが生まれました。さらに、資料のテーマをWork（仕事に役立つ）、Life（暮らしを助ける）、Art（芸術に触れる）に絞って小説や児童書のコーナーは置かないなど、サービスの内容を厳選し、資料の質を高めていくことにしました。また、わかりやすくコンセプトを利用者にもスタッフにも理解してもらえるよう、「はたらくをらくにする」とコピーを作り、館内の入り口にも掲示しています。

めまぐるしく変化するビジネスに対応し、また医療・健康、法律などを扱うには、常に最新の情報を多くの人たちに伝える必要があると考えたので、資料は館内閲覧のみとしました。

Q. 利用者の反響はいかがですか？

開館から途切れることなく、一日3,000人程度の利用者を数え、年間30万人の目標利用者数が、開館から10ヶ月で100万人に達しました。当館にリピーターが多い理由を一つあげよと言われれば、私は司書の発想力を活かした選書にあると思っています。当館では小テーマを定め、選書、配架を行なっています。例えば、「文章上手になりたい！」、「上司の苦悩」、「出会いもあれば…（離婚の棚）」、「誰か教えて！（恋愛の棚）」などです。これらの棚は、16人の司書が、それぞれ一つ一つの棚を担当し、作り上げています。テーマを決めてから本を選び、手に取りやすいように並べる。これまで関わりのなかった本や分野にも興味を持ってもらったり、知識の広がりを感じたりしてもらいたい、これが司書の1番の願いでして、従来の公共図書館ではやってこなかったチャレンジだと司書は話しています。

Q. 最後に、「図書館の未来」に向けた展望を教えてください。

月刊『観光文化』の2019年10月号に、「観光と図書館～地域の観光に図書館はどう寄与できるか～」という特集が組まれています。一般的に図書館は地域資料の宝庫で、その地域の文化に触れたい観光客には絶好の情報源ですが、実際にうまく機能しているとは言い難いという声もあるようです。一方で、当館の司書は、みな札幌育ちで札幌に根ざした感覚を持っています。今後も地域性を意識した情報サービスを行っていきたいと思います。

最後に「未来の図書館」ですが、私は公共図書館の存在意義は、普遍的であると考えています。それは、人生がないAIにはできない、その地に根ざした人生観・価値観を持った司書による、市民の美意識・価値観に寄り添い、影響を与える図書館だと思います。

〈お知らせ〉
11月13日パシフィコ横浜での公開審査により図書・情報館がライブラリー・オブ・ザイヤー2019大賞とオーディエンス賞をダブル受賞しました。

特集

図書館の今、図書館の未来

札幌市えほん図書館に行ってきました

のほほん編集委員　**伊東　健太郎**

札幌市えほん図書館は、白石区役所複合庁舎の6階に、2016年11月7日に開館されました。絵本を中心に集めた絵本専門の図書館で、乳幼児期からの読書のきっかけづくりを目的に、多くの絵本に囲まれ、乳幼児が絵本を楽しみ、学べる場であり、乳幼児の読書活動や、読書活動を通じた子育てにかかわる人を支援することを基本コンセプトとして、運営されています。

えほん図書館の入り口にあるアクリル板には、たくさんの可愛らしい絵が描かれています。これは子どもたちが描いたもので、図書館に入る前から楽しい気持ちにさせてくれます。図書館の中に入ると、そこは、多くの絵本が配架されていました。また、絵本に出てくる童話の世界のような飾りつけがされており、自分が童話の主人公になったような気持ちになり大人でもワクワクさせてくれます。

図書館には、読書コーナーや、よみきかせコーナー、おつきさまのへや（ボランティア等の活動室）、おひさまのへや（体験型活動室）が備えられていました。図書館の中には、たくさんの絵本や、雑誌などの他に、布絵本や、紙芝居、大型の絵本、点字絵本などもありました。

えほん図書館の特色としては、声を出して絵本を読むことができる図書館です。一般の図書館では、静粛を求められるのに対して、ここでは、こどもたちが声を出しながら自由に絵本を読むことができます。図書館内では楽しそうに本を読んでいる子供たちの声がきこえていました。また、子ども目線の低書架や絵本の表紙が見える配架、長く読み継がれる定番の絵本を複数そろえる工夫や、年齢に応じた本の配置、テーマに沿ったブックリストの作成などの配慮がされていました。

タッチパネル式の本の自動貸し出し機も設置され、小さな子どもでも、簡単に本を借りられるようになっていました。札幌市の図書館では子ども図書館にのみ唯一設置されているとのことでした。

えほん図書館の事業としては、年齢別のおはなし会が開かれ、0歳向けと1～2歳向けが毎週一回行われ、また、3歳以上向けのおはなし会が月1回行われています。

絵本の読み聞かせの効果として、親の嗜好だけでなく、司書の選書により幅広い絵本の世界の魅力を伝えられること、人の声を聴くことができることによって子どもの創造力を伸ばせるなどの効果があると考えられます。

他には、毎月第2日曜日に「図書館デビューの日」として、未就学児の子どもと保護者を対象に絵本を用いた企画が催され、バルーンアートを行ったり、マジシャンのマジック、音楽家とのミニコンサートが行われ、毎回多くの子どもや保護者が来館され、にぎわっているとのことでした。また、絵本作家を招いての絵本講座の実施や、デジタルコンテンツを利用した絵本作りなどワークショップを行い、小さい子どもの頃から、図書館に通い親しみを感じられるような企画が定期的に行われています。

読書推進プログラムとして、「めざせ！えほんマイスター」という企画があり、小学校入学前に絵本を1,000冊読むことに挑戦するというものであり、100冊ごとに特典が設けられ、1,000冊読むと「えほんマイスター」になれるというものです。このようにして、本を読むための工夫をして、読書の推進を図っていくという取り組みを行っていました。

みなさんも、こどもの頃にかえった気持ちで、こども図書館に一度訪れてみてはいかがでしょうか。

札幌市の図書館を活用しよう！

のほほん編集委員　**黒田　紀子**

札幌市民交流プラザにある図書・情報館やえほん図書館以外にも、札幌市には大学生が活用できる図書館が多くあります。例えば中央区南22条西13丁目にある中央図書館では、2階読書室と2階南側カウンター席は自習ができるスペースがあります。土日祝日の混雑時には、臨時読書室も開放しているそうです。利用制限時間はありませんが、節度を守り、譲り合いのうえ使用しましょう。また、荷物を置いて座席確保をすること、館内でおしゃべりすることは遠慮しましょう。

看護学関連やデザイン関連の蔵書が多い図書館はありますか？と聞いてみたところ、主に、中央図書館、図書・情報館で揃えているというお話を聞きました。特に、図書・情報館は課題解決型図書館としてWork、Life、Art、札幌の魅力発信等分野を絞った情報提供を行っており、看護関連はWork、Lifeコーナー、デザイン関連はWork、Artコーナーにて蔵書を取り揃えています。ただし、図書・情報館所蔵本は貸出不可となっておりますので、図書・情報館内で閲覧となるそうです。

北海道や札幌市について調べたいときは、札幌市中央図書館さっぽろ資料室で札幌市・北海道に関する資料を収集、保存しているので活用できます。資料展示、デジタルライブラリー等で広く公開されていますので、各種の調べものにはおススメです。

他にも、市内図書施設にない本の購入希望については、一部施設を除く図書カウンターで受け付けているそうです。購入できない場合には、札幌市の図書館を通して他市の図書館から借りることもできるとのことでした。

札幌市は各区に地区図書館もありますし、区民センターや地区センターにある図書コーナーも含めると、なんと47もの施設も利用可能となっています。きっと皆さんがお住まいの近くにも、利用可能な施設があるのではないでしょうか。

インターネットで「札幌市の図書館」で検索すると、札幌市図書館のホームページが検索できます。充実したホームページには様々な情報が載っていますので、参考にしてください。

ホームページでは蔵書検索や貸し出し予約もできます。また札幌市電子図書館もあります。電子図書館では札幌市の資料のほかにも、小説やレシピ本、旅行ガイド本なども揃っています。図書館に行かなくても利用できるので、忙しい方でも活用しやすいのではないでしょうか。

電子図書館の利用には、札幌市の図書館の貸出券とパスワードが必要です。なお、札幌市中央図書館１階電子図書館体験コーナーでは、貸出券がなくても体験できます。

図書館で心を豊かにする休日も良いものです。ぜひ活用してみてはいかがでしょうか。

http://www.city.sapporo.jp/toshokan/sisetu/top.html

（2019.11.6現在の札幌市の図書館URLです。）

図書館の未来

札幌市立大学附属図書館　図書館専門員
平　紀子

近年、図書館においてITを活用した業務や情報提供サービスは欠かせないものとなっている。今日では大学図書館や公共図書館の殆どがWeb OPACを公開し、一般市民はPCやスマホを活用して日常的な、また専門的な情報を入手することが可能となった。このように図書館の機能、役割が大きく変化する中で、大学図書館に新たな潮流としてオープンジャーナル、オープンサイエンス等、図書館現場の関与すべきテリトリーがどの範囲までなのかを議論する間もなく、次々と新しい波は押し寄せている。

AI（人口知能）が、人間が行う仕事の約半分が機械に奪われるという衝撃的な予測が話題になった。英オックスフォード大学でAIなどの研究を行っているマイケル・A・オズボーン准教授は、同大学のカール・ベネディクト・フライ研究員との共著『雇用の未来』において、コンピューター化によって自動的に行われる仕事は、20年後の将来には47%の仕事が失われると書かれており、その上位に図書館員が位置づけられている。

国立情報学研究所（NII：National Institute of Informatics）が提供している日本最大の総合目録・所在情報データベースであるNACSIS－CAT（ナクシスキャット）は主に大学図書館が参加する1,258機関が共同目録を作成し共有しているシステムであり、各図書館では日常的に利用しているが、先に「CAT2020クライアントのためのガイドライン」が公開された。目録作成業務を行う職員がカタロガーとして特別な知識や技術を持たなくとも目録を作成できるシステムに変更された。これは従来書誌階層を意識して本と向き合ってきた図書館員の気持ちに複雑な想いをなげかける。

PubMedは世界で最も利用されている生命科学に関する書誌情報データベースMedlineの無料検索システムであり、アメリカ国立医学図書館（NLM：National Library of Medicine）の一部門である国立生物工学情報センター（NCBI：National Center for Biotechnology Information）が提供している。

2019年11月18日、NLMはPubMedのリニューアル版、新PubMedが利用可能になったことを発表した。AIの学習アルゴリズムを利用したベストマッチ機能など、エンドユーザーがgoogleを検索する感覚で利用できる。また今回のリニューアルではタブレット等での検索を重視したデザイン変更が行われている。

多くの図書館員は新PubMedの新機能・変更点などの確認に奔走している。

そうなると今後の図書館員の活躍の場はどう変化していくのかが気になる。以前から図書館員の専門性、また専門職としての図書館員の教育のあり方について議論されてきた。図書館員とは特別な知識や技術をもつ者と考えられていたことが、業務の標準化により、あらためて求められる人材、およびその養成教育内容を考える時期を迎えたともいえる。

求められる図書館員とは、各大学図書館が何を目指すかにもよるが、米国のリサーチライブラリアンのように自身が研究を行い、その経験にもとづき研究支援に参画できる図書館員と考えられる。AIの頭脳を活用した情報サービス提供など、希望をもち進化していくことが図書館の未来を切り開くことにも繋がる。

映画「ニューヨーク公共図書館」が日本でも上映され話題になっている。図書館員であれば誰もが憧れる図書館であり、筆者も2000年訪れた。世界最大の知の殿堂と呼ばれる図書館は規模や素晴らしい壁画を誇るのではない。

起業や芸術の支援、医療情報などが充実した図書館として菅谷明子氏が紹介した『未来をつくる図書館―ニューヨークからの報告』には、この図書館がもつ機能・役割の可能性を示唆している。図書館は本を貸し出すだけではなく、新しい「知」を生み出す可能性を秘めた場所であると記している。2003年当時のアメリカ・ニューヨークの状況が書かれているが、現在の日本でもまだ追いついていない面が多々ある。

同図書館の視察は筆者にとって図書館マネジメント業務を行う上で地域の医療・健康情報提供システムのあり方について考えを進める大きな一歩となった。

正面のライオン像は時代を経ても信念を貫く悠然とした姿を示しており、未来を創る力を感じる。外観は変わらぬように見えても、そのあり様は大きく変化している。情報メディアの変化を捉えた時代の趨勢に合った情報提供のあり方を認識し、自らの社会的地位の向上に向けて日々努力を続けてきたライブラリアンの知識と技術が支えているのである。

菅谷明子『未来をつくる図書館―ニューヨークからの報告』岩波書店，2003
芸術の森図書館1階 文庫新書コーナー 080/Iwa/新赤837

札幌市立大学附属図書館情報
カウンターの内側からの図書紹介

翻訳できない世界のことば

エラ・フランシス・サンダース著/前田まゆみ訳　創元社, 2016
芸術の森 2F 一般図書 804¦San

イラスト
デザイン学部2年
澤田　春風

芸術の森キャンパス・ライブラリー司書
結城　聖良

著者のエラ・フランシス・サンダースが19歳(2013年)の頃、グローバルポータルサイト「Maptia」で、1語対1語での翻訳が難しい各国固有の言語を「翻訳できない世界の11の言葉」という記事にしてブログに取り上げ、大きな反響を呼ぶ事となりました。書籍化された日本語版も発売からわずか5ヵ月で10万部を売り上げ、話題になった事をご存じの方も多いかと思います。

本書には1語で翻訳出来ない言語として「侘び寂び」「ボケっと(ぼんやりしている)」等、日本語も取りあげています。その中でも印象的だった日本語が「木漏れ日」。日本ではおなじみの言葉ですが、当時の記事でも「翻訳できない世界の11の言葉」の1つとして取り上げられていました。他国の言語で「木漏れ日」と表現するには、「木や枝の間から日光が差し込んでいる景色」とわざわざ説明しなければいけないのです。四季折々な風景を楽しめる日本と、それを愛でる日本人だからこそ生まれた言葉なのかもしれません。

勿論こういった話は日本語だけではなく、世界中に各国固有の素敵な言葉が存在する事も本書で分かります。私が気に入っている言葉は「木漏れ日」と同じ風景を示す言葉として紹介されている「モーンガータ(スウェーデン語)」。水面に映る月明かりが道の様に見えている景色を1語で表現しています。これも湖沼が多いスウェーデンならではの美しい表現と言えるでしょう。全体的に景色や想いを表すロマンティックな言葉が数多く紹介されていますが、「バナナを食べるのに必要な所要時間」を指す「ピサンザプラ(マレー語)」、「シャツの袖を絶対ズボンに入れない男性」を意味する「コティスエルト(カリブ・スペイン語)」等、個性的な言語も数多く紹介しています。読んでいる内に、その国のどんな特徴が言葉に強く影響されているのかを考えながら読む様になりました。また私が好きな曲であるポルノグラフィティの「サウダージ(ポルトガル語)」も載っていたため、本書にある言葉の意味と歌詞を照らし合わせて反芻してみたりと、様々な楽しみ方をしています。

更にイラストレーターでもある著者のポップなイラストを1語ずつ見開きで楽しめるのも魅力的です。ついインテリアとして飾りたくなってしまいました。このイラストが各国固有の言語の日本語翻訳を補強し、感覚的に意味を伝えやすくする役割を果たしています。

同じ著者による「誰も知らない世界のことわざ」も図書館に所蔵しておりますので、興味のある方は是非ご利用下さい。

怪異と身体の民俗学：異界から出産と子育てを問い直す

安井眞奈美編著 せりか書房, 2014 桑園 一般図書 385.2¦Yas

イラスト
デザイン学部2年
竹内　菜実

桑園キャンパス・ライブラリー司書
谷口　明菜

私の祖母は若い頃、「妊娠中に肉を食べてはいけない。」と教えられたそうです。現在ではタンパク質・鉄を多く含む赤身の肉は、特に食べた方が良いとされていますが、昭和初期における「当たり前」は違ったようです。肉を食べると獣のような四つ足、つまり立って歩くことができない子供が産まれると信じられていました。その他、兎の肉を食べると兎口になる、餅を食べると母乳の出が良くなる、火事を見ると赤アザのある子が産まれる、など様々な言い伝えがあります。

今回ご紹介する本は、このような妊娠・出産に関する言い伝えが、どのような時代背景、医療環境により信じられていたのか、そして衰退していったのかについて解説されています。

私が特に興味をひかれたのは胞衣(胎児が包まれていた膜や胎盤)の扱いについてです。胞衣は明治期以降、焼却されることが条例で定められていますが、それ以前は信仰の対象でした。地域によって違いはありますが、多くは家の入口やお手洗いの前の土の中に埋められたそうです。胞衣は同じ母親の胎内から同じときに出た子供の分身であり、多くの人に踏まれることにより丈夫な子供になると考えられていました。この世とあの世の境界にあるもの、という性格を持っていた胞衣は、病院で出産する人が増え始めた頃から汚物として処理されるようになったのです。衛生上の観点から考えると正しいと思いますが、どこか寂しい気がするのも確かです。

その他にも、抜けた乳歯の行方や、おんぶからだっこへの変容など、私達の周囲にあるテーマについて語られています。

昔は身近にあり、畏れ敬われていた異界が、科学的根拠に基づいた「当たり前」に取って代わられる現代に私達は生きています。ただどの時代も、子供が元気に産まれ成長してほしい、という想いはなにひとつ変わらないのだと感じさせてくれる1冊です。

附属図書館 貸出・視聴ランキング

集計期間：2018/10/1～2019/9/30

図書貸出ランキング - 芸術の森 -

No.1 わかりやすく情報を伝えるための図とデザイン
PIE BOOKS編著/パイインターナショナル/2016
芸術の森 2F 一般図書 727/Pie

No.2 一杯の紅茶の世界史
磯淵猛著/文藝春秋/2005 芸術の森 2F 一般図書 080/Bun/456

No.3 アフタヌーン・ティの楽しみ：英国紅茶の文化誌
出口保夫著/丸善/2000 芸術の森 2F 一般図書 080/Mar/329

No.4 サピエンス全史：文明の構造と人類の幸福(下)
ユヴァル・ノア・ハラリ著/河出書房新社/2016 芸術の森 1F 文庫新書 209/Har/下

No.5 アニメ私塾流最速でなんでも描けるようになるキャラ作画の技術
室井康雄著/エクスナレッジ/2017 芸術の森 2F 一般図書 726.507/Mur

No.6 まち保育のススメ：おさんぽ・多世代交流・地域交流・防災・まちづくり
三輪律江, 尾木まり編著/萌文社/2017 芸術の森 2F 一般図書 376.1/Miw

No.7 スカルプターのための美術解剖学[1]
アルディス・ザリンス, サンディス・コンドラッツ著/ボーンデジタル/2016 芸術の森 2F 一般図書 701.5/Zar/1

No.8 なるほどデザイン：目で見て楽しむデザインの本。
筒井美希著/エムディエヌコーポレーション/2015 芸術の森 2F 一般図書 021.4/Tsu

No.9 たのしいインフォグラフィック入門
櫻田潤著/ビー・エヌ・エヌ新社/2013 芸術の森 2F 一般図書 727/Sak

No.10 日本語のロゴ：漢字・ひらがな・カタカナのデザインアイデア
フレア, グラフィック社編集部編/グラフィック社/2013 芸術の森 2F 一般図書 674.3/Nih

総　評

ランクインしたデザインに関する本のうち、ロゴや写真で分かりやすく情報を伝える内容の図書が人気です。1位の『わかりやすく情報を伝えるための図とデザイン』は、優れたグラフィック作品の要点を説明したものです。また、8位『なるほどデザイン：目で見て楽しむデザインの本。』は、昨年に引き続きランクインしており、本学での注目度が高い図書となっております。(芸術の森キャンパス・ライブラリー：金子)

AV視聴ランキング

No.1 シンドラーのリスト
スティーブン・スピルバーグ監督/スティーブン・ザイリアン脚本/トーマス・キニーリー原作
ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン/2004 芸術の森 1F AV 778/SCH

No.2 シャイン
スコット・ヒックス監督/ジャン・サルディ脚本/パイオニアLDC/1996 芸術の森 1F AV 778/SHI

No.3 Vicky Cristina Barcelona
written and directed by Woody Allen/アスミック・エースエンタテインメントアスミック/2008 芸術の森 1F AV 778/Vic

No.4 めぐりあう時間たち
スティーヴン・ダルドリー監督/アスミック /2003 芸術の森 1F AV778/MEG

No.5 座頭市
北野武監督・脚本・編集/バンダイビジュアル/2003 芸術の森 1F AV 778/ZAT

No.6 ラ・ラ・ランド
デイミアン・セイヤー・チャゼル監督・脚本/ギャガ /ポニーキャニオン/2017 芸術の森 1F AV 778/Lal

No.7 秒速5センチメートル
新海誠原作・脚本・監督/コミックス・ウェーブ・フィルム/2008 芸術の森 1F AV 778.77/Byo

No.8 Stanley Kubrick's eyes wide shut
produced and directed by Stanley Kubrick/screenplay by Stanley Kubrick and Frederic Raphael/ワーナー・ホーム・ビデオ/2007 芸術の森 1F AV 778/Sta/5

No.9 Down by law(Jim Jarmusch early collection DVD BOX)
directed by Jim Jarmusch/King Records/2006 芸術の森 1F AV778/Dow

No.10 ウォーク・ザ・ライン：君につづく道
ジェームズ・マンゴールド監督/ギル・デニス, ジェームズ・マンゴールド脚本
ジョニー・キャッシュ原作/20世紀フォックスホームエンターテイメントジャパン/2006 芸術の森 1F AV 778/Wal

総　評

全体的に洋画が上位を占める中、1位に輝いたのは「シンドラーのリスト」。昨年上映25年を迎えた事を記念し、北米でリバイバル上映された影響と思われます。一方、邦画は「座頭市」、「秒速5センチメートル」が再び上昇する結果となりました。(芸術の森キャンパスライブラリー：結城)

図書貸出ランキング - 桑園 -

No.1 質的研究への挑戦 第2版
舟島なをみ著/医学書院/2007 園 一般図書 492.907/Fun

No.2 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント：同一事例による比較 第3版
渡邊トシ子編集/ヌーヴェルヒロカワ/2011 桑園 一般図書 492.913/Wat

No.3 質的研究実践ノート：研究プロセスを進めるclueとポイント
萱間真美著/医学書院/2007 桑園 一般図書 492.907/Kay

No.4 看護過程展開ガイド：実習記録の書き方がわかる：ヘンダーソン、ゴードン、NANDの枠組みによる 改訂版
任和子編著/照林社/2009 桑園 一般図書 492.914/Nin

No.5 病気がみえる1 消化器 第3版
医療情報科学研究所編/Medic Media/2008 桑園 一般図書 492/Iry/1

No.6 文献レビューのきほん：看護研究・看護実践の質を高める
大木秀一著/医歯薬出版/2013 桑園 一般図書 492.907/Oki

No.7 病気がみえる7 脳・神経
医療情報科学研究所編/Medic Media/2011 桑園 一般図書 492/Iry/7

No.8 発達段階からみた小児看護過程+病態関連図 第2版
石黒彩子, 浅野みどり編集/医学書院/2012 桑園 一般図書 492.925/Hat

No.9 人間対人間の看護
Joyce Travelbee著/医学書院/1974 桑園 一般図書 492.901/Tra

No.10 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第2版
太田操編著/医歯薬出版/2009 桑園 一般図書 492.924/Ota

総　評

昨年9位の「質的研究への挑戦」が今年はランキング1位になりました。論文執筆、研究をされる学生の利用が顕著に表れています。毎年人気の「病気がみえるシリーズ」は実習中の補助資料として、利用が多いようです。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 中川)

AV視聴ランキング

No.1 育つことを大切にする環境・基礎知識(NICU・GCUの看護：第1巻)
ビデオ・パック・ニッポン制作・著作/
ビデオ・パック・ニッポン//2015 桑園 AV 492.925/Nic

No.2 育つことを大切にする援助(NICU・GCUの看護：第2巻)
ビデオ・パック・ニッポン制作・著作/ビデオ・パック・ニッポン/2015 桑園 AV 492.925/Nic/2

No.3 消化・神経・成熟微候・外表(看護教育シリーズ. 目で見る新生児看護：vol.4/胎外環境への適応生理：2)
医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2010 桑園 AV 492.921/Med/4

No.4 呼吸・循環・代謝(看護教育シリーズ. 目で見る新生児看護：vol.3/胎外環境への適応生理：1)
医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2010 桑園 AV 492.921/Med/3

No.5 分娩1～4期の看護実践(看護教育シリーズ. 目で見る母性看護：vol.6/分娩経過のアセスメントと看護)
笹木葉子原案/医学映像教育センター/2007 桑園 AV 492.924/Med/6

No.6 産褥早期の母親へのアセスメントと支援(看護教育シリーズ. 産褥経過のアセスメントと支援の実際：vol.2)
医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2011 桑園 AV 495.8/San/2

No.7 妊婦健康診査と保健指導妊娠中期(看護教育シリーズ. 目で見る母性看護：vol.2)
長浜亜希子原案/医学映像教育センター/2003 桑園 AV 492.924/Med/2

No.8 出産直後からの育児支援(看護教育シリーズ. 産褥経過のアセスメントと支援の実際：vol.1)
医学映像教育センター制作著作/医学映像教育センター/2011 桑園 AV 495.8/San/1

No.9 患者さんと心がつながる看護学生の臨地実習ナビゲーション
アローウィン制作・著作/アローウィン//2015 桑園 AV 492.907/Kan

No.10 神様のカルテ
深川宋洋監督/博報堂DYメディアパートナーズ/2012 桑園 AV 778/Kam

総　評

新生児看護・母性看護の資料がランキングの大部分を占めています。ランキング9位の「患者さんと心がつながる看護覚醒の臨地実習ナビゲーション」を含め、実習に関連して視聴されています。珍しく10位に「神様のカルテ」がランクインしました。(桑園キャンパス・ライブラリー司書 中川)